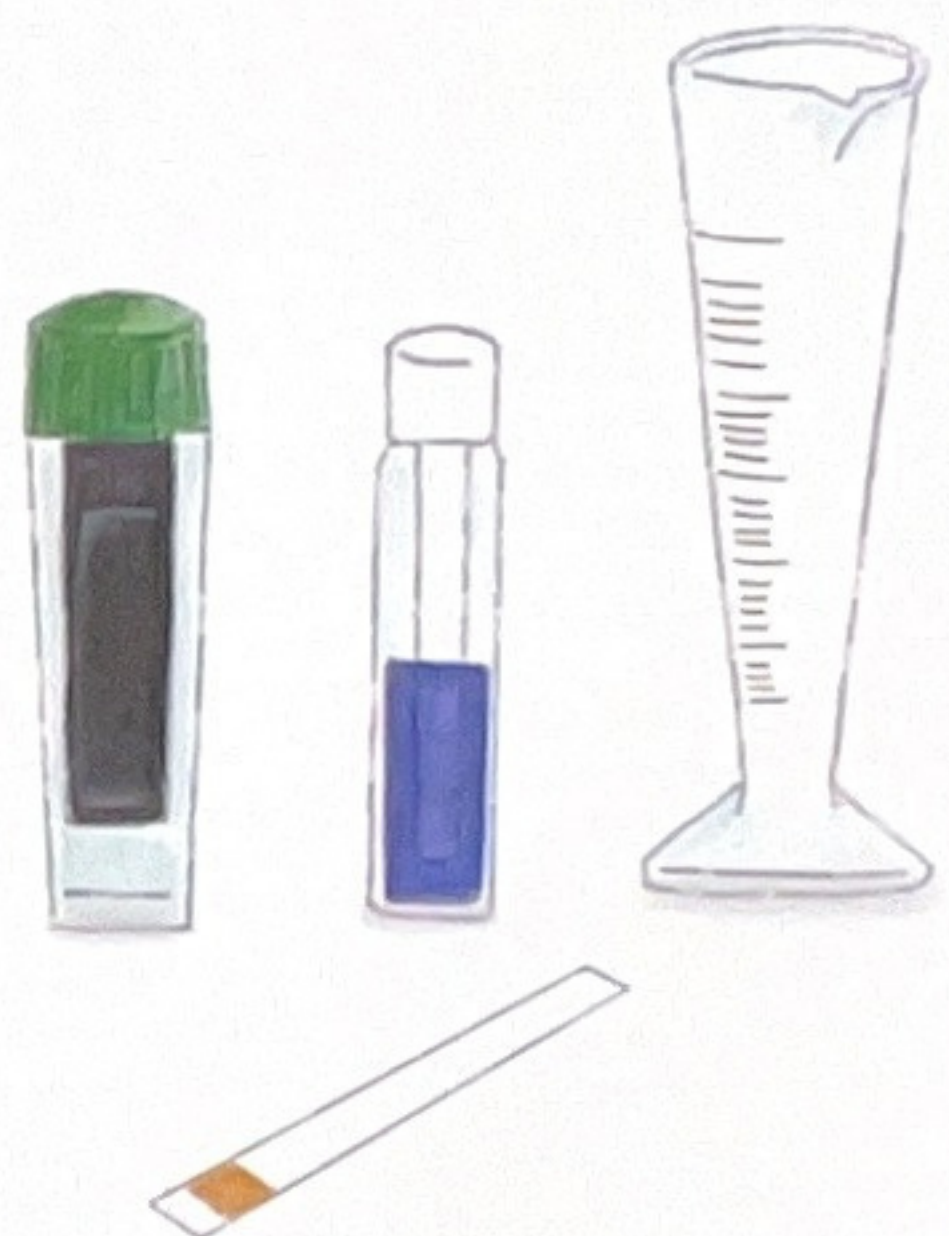


今年の1月、予防に特化した歯科医院として開設された、いなざわ歯科・口腔外科。

院長の辻秀明先生が医院の根幹と位置づけているのが、病因論にもとづいたシステムと

歯科衛生士の存在です。

辻先生とお二人の歯科衛生士にお話を聞きました。



日本の欠損歯を減らしたい

辻先生 私はもともと、口腔外科や一般歯科に勤務していました。そこで、ジルコニアインレーを入れても2次カリエスになるなど予後の悪い歯を数多く治療してきました。

そんなとき出会ったのが、「**カリエスもペリオもすべて原因がある。その原因を除去しなければならぬ**」という**病因論**。この考え方にもとづいた予防歯科こそ、歯科医療の本質じゃないか。強い衝撃を受けましたね。

地域において、誰かが中途半端でなく突出して予防歯科をやらなければ、日本の欠損歯は減らない。そんな医院が一つあることが大事だと考えて開業しました。

医院づくりにあたり、絶対に必要なのが歯科衛生士です。だ液検査の『デントカルト』を活用し、患者さんが自身のリスクを理解してみずから行動できるように導く存在ですね。

リスクにもとづいて

アプローチできています

三美さん 見た目がとても素敵で、性格もしっかりしている方でも、意外とお口の中にトラブルを抱えていることが多いんです。「気づいていないだけで、ちゃんと知ればケアできるの」と感じる場面がよくありました。

最近では、「高齢の患者さんから」もつと早くからケアしておけばよかったなあ」と言われたことも。**やはり若いうちから気づいてもらせるような関わり方が大切だと、改めて実感しました。**

今では、だ液検査を活用することで、その方のリスクがしっかりと見えるようになり、それをわかりやすく伝えられるようになっていきます。担当制なので、ずっと同じ患者さんに関わっているのもうれしいですね。一緒にリスク管理をしながらメンテナンスを進められています。患者さんの反応もとてもよく、大きなやりがいを感じる毎日です。

伝える内容が変わったら、

患者さんの意識も変わりました

森下さん だ液検査を取り入れるようになってから、PCRの数値だけでは見えなかったリスクがたくさん見えてくるようになりました。たとえば、PCRの数値が高くても、菌の量がそれほど多くない方もいます。唾液の質や食生活、フッ素の使い方など、さまざまな要素がむし歯のリスクに関わっていることがよくわかりました。

今では、単にブラッシングのことだけを伝えるのではなく、いろいろな角度からその人に合ったお話ができるようになってきました。すると、「**ちゃんと自分に合ったケアをしていこう**」と意識してくれる方が増えたように感じます。だ液検査は患者さんにとって気づきのきっかけになっているので、予防をしていくうえでとても重要な役割を果たしていると思います。

もっと歯科衛生士が輝ける場を！

辻先生 デントカルトの結果を通して病因論を伝え、患者さんはとても満足してくれます。セルフケアの意味を理解して積極的に取り組む方が大きく増えたので、強い手応えを感じています。

こうした一人ひとりの患者さん向き合う予防のシステムでは、歯科衛生士はなくてはならない存在。だからこそ、やりがいを持って働ける環境づくりが、とても重要です。

当院では、たとえば「45分の枠を1時間にしたい」などの歯科衛生士からの希望は、基本的にすべて認めています。もちろん、経営や患者さんの健康に関する最終的な責任は私にありますが、1時間のO・Hで患者満足度を上げるといった面での責任はしっかりと担ってもらっています。

予防に特化した歯科医院で働いている歯科衛生士は、本当に輝いているんですよ。一方で、活躍できる環境がまだまだ少なく、離職率が高いのは歯科界の大きな課題ではないでしょうか。

いま健康な人を、将来も健康にする

辻先生 予防歯科は、口腔内の病変を防ぐのはもちろん「健康な人が訪れる場所」でもあります。特に、健康な方や若い世代にアプローチできるという点は、最大の強みではないでしょうか。

そこでも考えているのは、管理栄養士の採用です。メインテナンスをとおしてカロリー管理や食事習慣、栄養の摂り方などについてアドバイスができるようになります。特に10〜20代のうちに生活習慣や食習慣を見直せば、将来的に大きな意味を持つはず。医科の生活習慣病のリスクファクターを歯科から減らせますから。

カリエスやペリオに関しては、当院のシステムであれば確実に予防できます。だからこそ、今後は「医科歯科連携」を実現し、生活習慣病の改善にも貢献していきたいと考えています。



まずは地域に健康な人を増やしたい！
チームによる予防で、未来を変えていきます

Interview

いなざわ歯科・口腔外科（愛知県）

院長 辻 秀明 先生（写真中央）

歯科医師
の声

**患者満足度が高いのは、
歯科衛生士が活躍しているからです**

「カリエスもペリオも、すべて原因がある。その原因を除去していくことが歯科医療の本質」これらの歯科には、こうした病因論の考え方が求められるようになるはず。そんな強い思いから今年の1月に開業した辻秀明先生。予防への取り組みとその成果について、詳しくお聞きしました。

**原因除去には、
「リスクの見える化」がカギ**

私はもともと、口腔外科や一般歯科に勤務していました。予後の悪い歯を数多く治療してきたのは、予防の大切さ。見えないリスクを見えるようにして疾患の原因を除去することが、何より重要と感じています。そのために必要なのが、だ液検査です。何種類か試してみたところ、簡易的なものや数値が細かく出るタイプがあったのですが、患者さんに見せるものとしては押しが弱いというか……。



いざざわ歯科・口腔外科(愛知県)
院長 辻 秀明
歯科衛生士

その点、『デントカルト』は患者さんにとってわかりやすいですし、生活習慣を相談できます。私たちも説得力を持って提案できるので導入を決めました。

このだ液検査を活用して、患者さんが自身のリスクを理解し、自ら行動できるように導いているのが歯科衛生士です。

**だ液検査を受けた患者さんに、
明らかな変化が**

「冷たいものがしみる」という主訴で来院した82歳の女性がいます。口腔内をみると、根面カリエスがたくさんありました。

担当の歯科衛生士がだ液検査

を行なった結果、ミュータンス菌もラクトバチラス菌も多く、食生活アンケートも高リスク。本人は糖分がむし歯の原因になることは知っていても、菌の存在や自分の口腔内のことは知りません。コロニーを見ると驚いて、「これが今の私の状態なのね。どうすればいいの?」とおっしゃっていました。PCRも高かったので、お口に合った歯ブラシと使い方を説明。フッ素をしっかりと使うことも伝えました。すると、根面が明らかに滑沢になって石灰化してきたんです。これから1年2年とみていき、削らずに済むことを狙っています。

**「この医院に来てよかった!」
と言われる理由とは**

『デントカルト』の結果を通して病因論を伝えると、患者さんほどでも満足してくれますね。セルフケアの意味を理解して取り組みようになる方が大きく増えたので、このシステムに強い手応えを感じています。

実際、患者さんの約8割が「この医院に来てよかった」とおっしゃっています。そうした声が多いのは、歯科衛生士が親身になって寄り添っているからなんです。

一人ひとりの患者さんと向き合う予防のシステムにおいて、歯科衛生士はなくてはならない存在。

だからこそ、やりがいを持って働ける環境づくりがとても重要と考えています。

当院では、たとえば「45分の枠を1時間にしたい」などの歯科衛生士からの希望は、基本的に認めているんです。もちろん、経営や患者さんの健康に関する最終的な責任は私にありますが、患者満足度を上げるといった面での責任はしっかり担ってもらっています。

予防に特化した歯科医院で働いている歯科衛生士は、本当に輝いています。一方で、そうした環境がまだまだ少なく、離職率が高いのは歯科界の大きな課題ではないでしょうか。

歯科衛生士が輝く場を提供し続けること。それが私の使命の一つだと思っています。

歯科衛生士
の声

Mさん

だ液検査をすると、ブラッシング指導だけでなく食生活を含めたいろいろな面から患者さんに伝えられます。患者さんにとっても、意識の改革になっていると思います。

Sさん

今まで、自分のリスクに気づけていないためにケアしていない患者さんをたくさん見てきました。ここではだ液検査をしてリスクをみられるようになり、患者さんに合わせたアプローチができています。

Aさん

歯科衛生士をやめようと思っていたときに院長先生と出会いました。歯科衛生士として輝ける場を見つけて、もう一度スタート地点に立てた気がします。こんなに楽しい仕事ができるのだから、やめなくてよかったです。

Nさん

ここで初めて予防の考えに触れ、「患者さんと向き合えるのっていいな」と思いました。実際に時間をかけてコミュニケーションを取るのにはやりがいを感じますし、すごく楽しいです。

「歯と口の健康週間」特別企画

**「だ液検査」
オンラインセミナー**

- これからだ液検査を始めたい歯科医院向け
 - もっとだ液検査を活用したい歯科医院向け
- 当てはまるほうを選べます。

詳細は同封のチラシをご覧ください。